

ダイジョウブ、なんとかなるって

Be my Guest, Be my Baby

フィリピンパブ嬢の社会学



前田航基 一宮レイゼル

ステファニー・アリアン 田中美里(友情出演) 津田寛治

飯島珠奈 仁科 貴 浦浜アリサ 近藤芳正 勝野 洋

原作：中島弘象『フィリピンパブ嬢の社会学』（新潮新書刊）

監督：白羽弥仁 脚本：大河内 聡 音楽：奈良部匠平

指揮：高柳通 企画協力・プロデュース：三谷一夫 プロデューサー：向田優 小谷晃一 撮影監督：豊浦律子 撮影：森崎真実 照明：二枝史子 録音・整音：松野 泉
美術：阿久津桂 スタylist：チバヤスヒロ ヘアメイク：安藤由紀 監修：岩川栄二 岡本博文 編集：薫敬 演出助手：木保忠太 撮影助手：若山由佳 三輪一登
照明助手：山西博子 前濱福一 録音助手：野原昌太 美術助手：岡島はるか 衣裳助手：田中のい 制作進行：北林祐基 ばんぼん 播磨希帆 制作進行助手：若林亮之
車向：藤原栞哉 熱田雅也 水澤俊光 アニスタントプロデューサー：鈴江あずさ フィリピンキャストマネージャー：バーゴ石原 ネストール レイ・ブ
フィリピン料理監修：アグアス レイチェル テレオン スチール：藤井三千 大西五朗 メイクアップ：渡邊拓斗 船屋拓巳 宣伝美術：普照大智
製作：「フィリピンパブ嬢の社会学」映画製作有限責任事業組合 運営統括：春日井市映画製作実行委員会
運営協力：一般社団法人 春日井市観光コンベンション協会 フィルムコミッション 制作・配給：キョウカス

パブで出会って、騙され？ 恋をした！ 実話に基づく 21世紀のアジアン・ラブストーリー

大学院生の実体験に基づいた研究ルポを映画化 日本で働く外国人女性労働者の実態をリアルに描いた異色のラブストーリー

本作は原作者・中島弘象氏による実体験を描いた話題の新書「フィリピンパブ嬢の社会学」の映画化です。フィリピンパブの裏側で未だ行われている偽装結婚を背景に、多文化共生のあり方を『能登の花ヨメ』『ママ、ごはんまだ?』の白羽弥仁監督が描きます。2023年に全国公開予定です。



お笑いコンビ「まえだまえだ」の兄・前田航基が11年ぶりの主演 国内外で活躍する俳優陣がアンタッチャブルな世界に集結！

主人公の中島翔太役には、2011年に映画「奇跡(監督:是枝裕和)」で、弟の前田旺志郎さんとW主演で鮮やかなデビューを飾った前田航基。今回は11年ぶりの主演(単独としては初主演)となります。ヒロインのフィリピンパブ嬢ミカ役には、映画初出演となる一宮レイゼルが東京、愛知で開催された全国オーディションにて抜擢されました。共演には、近藤芳正、勝野洋、田中美里、仁科貴をはじめ、カンヌ国際映画祭で高く評価された映画『PLAN 75』のステファニー・アリアンや『ONODA 一万夜を越えて』で主演の津田寛治、『東京不穏詩』で大阪アジア映画祭の最優秀女優賞に輝いた飯島珠奈など、国内外で活躍する俳優陣が脇を固めています。



フィリピンパブ嬢の社会学

■ STORY

フィリピンパブを大学の研究対象にしていた日本の大学院生・中島翔太（前田航基）は、パブで偶然出会ったフィリピン人女性のミカ（一宮レイゼル）に詰め寄られ、お付き合いを始めることになります。しかし、彼女は偽装結婚をしていることが後になって判明します。

月給6万円、ゴキブリ部屋に監視付、休みは月に2回だけといった彼女の過酷な生活環境を目のあたりにする翔太。一方、強く逞しいミカは現状にめげることなく働き続け、故郷・フィリピンで暮らす両親の元に翔太を連れていきます。いつしか彼女を大切に想う気持ちが強まっていく翔太は、ミカに懇願されてヤクザの元に乗ることに—



■原作者・プロフィール

中島弘象

1989年、愛知県春日井市生まれ。中部大学大学院修了（国際関係学専攻）。会社員として勤務する傍ら、フィリピンパブを中心に取材や執筆活動を行う。著書に「フィリピンパブ嬢の社会学」（新潮新書）がある。

2023年6月、本作続編となる「フィリピンパブ嬢の経済学」（新潮新書）が刊行予定。

<原作者メッセージ>

『フィリピンパブ嬢の社会学』を出版して5年。生まれ育ち今でも生活している春日井市で映画化されること、本当に嬉しく思います。フィリピンパブを研究しようと訪れた店で偶然隣に座った女性と交際し、結婚するまでの間、今、フィリピンから若い女性たちが日本のフィリピンパブにどのように来て、どのような環境で働いているかが見えてきました。

僕も彼女も沢山の問題に直面し、一つずつ乗り越えてきました。実際に彼女と経験したことが、どのように映画で描かれていくのか楽しみにしております。



■監督・プロフィール

白羽弥仁

1964年、兵庫県芦屋市生まれ。日本大学芸術学部演劇学科卒。1993年に公開された『She's Rain』で劇場映画の監督デビュー。その後『能登の花ヨメ』（2008）、『劇場版 神戸在住』（2015）、『ママ、ごはんまだ？』（2016）はサンセバスチャン国際映画祭、ヴェリニクス国際映画祭に正式出品された。以降も、『みとりし』（2019）、『あしやのきゅうしょく』（2022）と精力的に映画を撮り続けている。日本映画監督協会会員。読賣テレビ番組審議委員



<監督メッセージ>

2018年のある日、『フィリピンパブ嬢の社会学』という本を読み終わって映画化を熱望した私は、SNSを通じて中島さんとコンタクトを取り、すぐさま名古屋へと向かいました。それから4年余、本日ようやくクランク・インを迎えるに至りました。タイトルに社会学とありますが、私には今時珍しい純愛ストーリーというのが第一印象でした。ロミオとジュリエットは悲恋に終わりますが、本作の二人はあらゆる障害にもめげず、ポジティブに突き進んで行きます。彼らの愛を描くことで時代の閉塞感に風穴を開ける作品にしたいと思っています。



フィリピンパブ嬢の社会学

■キャスト・プロフィール

前田航基

1998年生まれ、大阪府出身。子役としてデビュー後、2007年に弟の旺志郎とお笑いコンビ「まえだまえだ」を結成。11年に是枝裕和監督の映画『奇跡』で主演を務める。

主な出演作は、大河ドラマ「おんな城主 直虎」(17)、連続テレビ小説「おかえりモネ」(21)、Netflix『舞妓さんちのまかないさん』(23)、映画『ソロモンの偽証 前篇・事件／後篇・裁判』(15)、『LIVE!LOVE!SING! 生きて愛して歌うこと 劇場版』(16)、『セーラー服と機関銃 -卒業-』(16)、『人狼ゲーム ラヴァーズ』(17)、『ハルチカ』(17)、『町田くんの世界』(19)、『任侠学園』(19)、『キネマの神様』(21)『今夜、世界からこの恋が消えても』(22)など。



一宮レイゼル

1997年4月23日生まれ、フィリピン出身。12歳で来日し、石川県加賀市で育つ。母国語のタガログ語のほか、日本語、英語が流暢なトリリンガルタレント・女優。初めて受けた映画のオーディションが今作で、女優デビュー作品となる。



■キャスト・プロフィール

ステファニー・アリアン

フィリピン人の母と日本人の父を持ち、フィリピンで生まれ育つ。自国で演技や舞台の経験を積み、18歳で女優になる夢を持って来日。以降、日本でも広告やテレビ、映画など多くの作品に出演。2022年には映画『PLAN75』にマリア役で出演。同作は第75回カンヌ国際映画祭にて、カメラドール スペシャル・メンション（特別賞）を受賞したことで注目を集めた。



津田寛治

福井県出身北野武監督の「ソナチネ」（1993年）で映画デビュー。2002年森田芳光監督の「模倣犯」にて第45回ブルーリボン賞助演男優賞、2008年黒沢清監督作「トウキョウソナタ」にて第23回高崎映画祭最優秀助演男優賞、2021年村橋明郎監督「山中静夫氏の尊厳死」にて第30回日本映画批評家大賞にて主演男優賞を受賞。近年の主な出演作は「ONODA 一万夜を越えて」、「山中静夫氏の尊厳死」、「宮松と山下」など。2023年は、「首」、「おしよりん」、などの公開を控えている。

近藤芳正

1961年、愛知県出身。1976年『中学生日記』出演をきっかけに、1979年劇団青年座研究所に入所。映画『ラヂオの時間』『有頂天ホテル』、NHK大河ドラマ『真田丸』、舞台『笑の大学』など、三谷幸喜氏の作品に数多く出演。

その他の主な出演作品に、ドラマ『GTO』、『大豆田とわ子と三人の元夫』、『魔法のリノベ』、『おやしキャンブ飯』、NHK連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』、映画『リバー、流れないでよ』など。



田中美里

1977年石川県生まれ。1997年、NHK連続テレビ小説『あぐり』のヒロインに抜擢されデビュー。その後、ドラマ・映画・舞台に多数出演。また韓流ドラマ『冬のソナタ』でチェ・ジウ演じるヒロイン、ユジンの吹き替えを務めたほか、柔らかく印象的な声を生かしてナレーターやラジオのパーソナリティーとしても活躍している。さらに2019年、自身がプロデュースする帽子ブランド『ジンノビートシテカッシ』を立ち上げた。

■キャスト・プロフィール

飯島珠奈

神奈川県出身。イギリスで舞台演劇を学び、帰国後は主に映画に出演。主演作『東京不穏詩』（18 / アンシュル・チョウハン監督）で大阪アジア映画祭にて最優秀女優賞を受賞。『ケンとカズ』（16 / 小路紘史監督）、『浜辺のゲーム』（19 / 夏都愛未監督）、『ほだけそうな、息』（22 / 小澤雅人監督）などに出演。初監督短編作品『Natsuko』（20）はニューヨーク・アジア映画祭含め国内外の映画祭で上映される。



仁科 貴

1970年生まれ、京都府出身。明治大学中退。学生時代から映画、演劇のスタッフ、声優など経験し、96年俳優デビュー。映画「アウトレイジ 最終章」「劔岳 点の記」などの代表作の他に「呉清源～極みの棋譜～」 「JOHN RABE」などの海外作品。近年のドラマでは「刑事ゆがみ」「サウナーマン～汗か涙かわからない～」など多くの作品に出演。オフィス北野を経て現在はフリー。最新作は北野武監督「首」(今秋公開)。

浦浜アリサ

アメリカ人の父と、日本人の母の間に生まれ、兵庫県で育つ。4歳からモデルとして活動をはじめ、15歳の時に「神戸コレクション 2005 AUTUMN/WINTER」にてショーデビュー。以降、国内外の様々な雑誌やブランドのショーに出演。2007年、MTV JAPANのVJとして司会業スタートを機に、J-WAVEをはじめラジオでのDJ、イベントのMCも努めている。現在は俳優としても、舞台や映画、ドラマに出演。Netflixオリジナルシリーズ『今際の国のアリス：シーズン2』が全世界配信中。



勝野 洋

1949年7月27日生まれ、熊本県出身。青山学院大学在学中にモデル活動から俳優を志し、人気ドラマ「太陽にほえる！」テキサス刑事役でブレイク。以後、大正製薬「リポビタンD」CMや、卓越したアクション技術を活かして「柳生あばれ旅」、「忠臣蔵」、「太平記」など時代劇や舞台でも人気を博し活躍。近年では「軍師官兵衛」、「相棒 season20」といった作品でも独自の存在感を放ち続けている。

私のこと、弱い人間だと思いますかー



前田航基 一宮レイゼル

ステファニー・アリアン 田中美里（友情出演）津田寛治
宮本忠博 五十嵐美紀 岸本華和 イマニ・スタンフォード 鈴江あずさ 藤原基樹
飯島珠奈 仁科貴 浦浜アリサ 近藤芳正 勝野洋

原作：中島 弘象『フィリピンパブ嬢の社会学』（新潮新書）
監督：白羽弥仁 脚本：大河内聡 音楽：奈良部匠平

指揮：高柳通 企画協力・プロデュース：三谷一夫 プロデューサー：向田優 小谷晃一
撮影監督：豊浦律子 撮影：森崎真実 照明：二枝史子 録音：松野泉
美術：阿久津桂 スタイリスト：チバヤスヒロ ヘアメイク：安藤由紀 飯塚よしみ
助監督：荒川栄二 岡本博文 編集：董敬 演出助手：木俣恵太 撮影助手：若山由佳
三輪一登 照明助手：山西博子 前濱福一 録音助手：鰐部晶太 美術助手：岡島はるか
衣裳助手：田中めい 制作進行：北林佑基 ばんばん 播磨希玳 制作進行助手：若林堯之
車両：藤原侑哉 熱田雅也 水澤俊光 アシスタントプロデューサー：鈴江あずさ
フィリピンキャストマネージャー：バージ石原 ネストール L. プノ
フィリピン料理監修：アグアス レイチェル デレオン
スチール：藤井三千 大西五朗 メイキング：渡邊拓斗 納堂拓巳 宣伝美術：普照大督

製作：「フィリピンパブ嬢の社会学」映画製作有限責任事業組合
運営統括：春日井市映画製作実行委員会
運営協力：一般社団法人 春日井市観光コンベンション協会 フィルムコミッション
制作・配給：キョウタス

2023年/日本/カラー/5.1ch/HD/114分
公式サイト <https://mabuhay.jp> ©2023「フィリピンパブ嬢の社会学」製作委員会

＜映画に関するお問い合わせ＞

キョウタス info@kyotas.co.jp

まずは、上記メールアドレスにご連絡ください。担当者より折り返しご連絡させていただきます。



公式サイト

2023年公開予定

フィリピンパブ嬢の社会学



@movie_Phili_pub